

抱え上げない介護 研修会(3日間)1日目(9/15)アンケート集計 受講者204名

◆仕事・所属

管理職の役職	施設長	3	部長	1	合計14
	理事長	2	課長	2	
	取締役	1	主任	2	
	管理者	2	係長	1	

看護師	19	ケアマネ	6	事務職	19	合計109
介護所	39	福祉用具 専門相談員	7	その他	4	
		リハ職	13	相談員	2	

◆その他の方 (4) 企業関係者 2、事務職 1、未記入 1

◆研修受講しての意見

①石橋弘人氏講演内容について (回答数88件)

・ 人手不足を理由とせずに新しいことを進めていくことが大事な事だとわかった。
・ 海外に比べて日本の介護はまだ遅れていることがわかった。
・ 「緊張を与えるケア」という言葉が印象に残っている。自分のケアを見直そうと思った。
・ 焦るケアは緊張を高めるため、ゆっくり優しいケアを念頭において取り組んでいきたいと思います。
・ 拘縮=緊張。緊張を与えないケアはノーリフティングケア。人材育成が大事と思った。
・ ありがとうございます。
・ 是非、自分の施設の理事長に聞いてもらいたいお話でした。
・ 拘縮の方もゼロにはならないが減らすことができる事が分かったので良かったです。スタッフのモチベーションを上げれる様、声かけ等、工夫していきたいと思った。少しでも拘縮のある方を減らしたいと思った。
・ 急性期の病院ではなかなか拘縮のことまで伝えられていない。腰痛予防を常に考えながら伝えているが、拘縮の「ことも伝えたいと思った。
・ 介護現場の状況がよくわかった。
・ なぜ福祉施設等での離職率が高いのか・・・等、現場職員、管理職、経営者それぞれの目線での講義内容にとっても感銘を受けました。スタッフ全員で頑張りたいと思います。先生のお話を聞きながら胸のつかえが少し取れました。ありがとうございます。
・ 拘縮という事を初めて知りました。緊張をなくす福祉用具のニーズがある事が分かりましたので、有用なお話でした。
・ 抱え上げないことの必要性を再認識できました。最初からいいケアができると拘縮ゼロの世の中になるな・・・と思いました。
・ 緊張を与える行為、拘縮の要因等、きもち頭の中がスッキリしました。これからの人材不足を真剣に捉えてノーリフトを勉強していきたいと思いました。
・ とても分かりやすかった。改めて取り組んでいきたいと教えられました。
・ 病院のトップが受講出来たらよかったと残念に思いました。患者の対応についても、不安を与えない取り組み等、考えさせられました。
・ 自分の職場での介護の在り方を考えさせられました。わかっているけど実践できていない。
・ 危機感一杯です。拘縮ゼロになる日本のために普及していきます。そのための現状把握やアンケート、マネジメントが大切でその仕組みをもっと知りたいです。
・ 分かりやすかったです。
・ 施設のスタッフに用具の必要性を伝えても「上司に言っても買ってくれない」と言われる方が多いのですが、今日お話を聞いた事をしっかりと伝えていけば理解してもらえるのかもしれないと思いました。営業先の施設の理念を頭に入れておく事が大切だと気づかされました。
・ 世界に目を向けると、拘縮している方はほとんどいないという事に驚きました。病院で働いていると拘縮している方が殆どです。身体が拘縮した状態で入院される方々を見ると、なぜこんなになるまで放ったらかしたのか？と思ってました。しかし、今日の研修を受け、決して放ったらかし訳ではなく、看護、介護しているけど、間違った方法で行っていたという事に気づかされました。少しずつでも正しい方法で患者さんに対して安楽に1日1日を過ごしてもらおう事ができるようにしたいです。
・ 経営と抱え上げない介護がどのようにリンクしているか理解が深まりました。
・ 現在ある医療圏は人口が増えているので、まだまだ人手不足になることはないと思っていましたが、考え直すことが出来ました。
・ 施設の衰退、現実視せざるおえません。理念が掲げられていても文字のみ、新人教育も責任者と考えられる士長クラスの方が夜勤を7~8回こなしままならず、見様見真似の新人によるケアは止めようがない。利用者に対してのケアがケアではなく作業化、このような状況で拘縮改善をどうすべきか考えさせられます。
・ 業務を見直すともいいきっかけを頂きました。ありがとうございました。
・ 納得するところがありました。
・ 抱え上げない介護を当たり前のケアにし人手不足を解決するには、利用者の方、介護する人にとっても有効なノーリフティングケアを具体化するには経営側の目的、目標、手段を明確にする必要があり、マネジメント能力が問われることを学んだ。
・ 拘縮が日本にのみ多発していることを聞きショックだった。根本的解決の必要性を痛感した。
・ 目的、目標、手段、私の職場を確認して再認識したいと思う。
・ 今からの時代、いかに緊張を与えないケア、害を及ぼすようなケアをしないという事が大事。1つ1つのケアの仕方を考えていく必要があるし、その人にあったケアが必要。
・ 拘縮に対しての考え方、捉え方を改めて考え直すことの大切さがわかった。また、専門職として、患者家族の立場になることの大切さを痛感した。
・ 「同じ姿勢で放置することは虐待です。」という言葉が印象的でした。また、腰痛予防にしっかり取り組む必要があると思った。
・ 人手不足を実感している中で、本気でこれまでの考え方、やり方を変えていく必要がある事を実感できる内容だった。

・	人手不足の今を感じながらケアを行い、職員のモチベーションが下がっています。先生の講演で拘縮は自分達が作っていることに気づく事が出来ました。緊張を与えないケア、ノーリフティングケアに取り組んでいきます。
・	人手不足に直面しており経営的にも厳しい状況の中、目先のことに振り回されない覚悟が必要と感じた。
・	現状の介護現場の状況がよくわかりました。どこの世界も人手不足の状況は同じだなと思った。
・	腰痛予防や拘縮予防についてのエビデンスが聞けて良かった。
・	離職を減らす事で、施設の経営難を防ぐことができる。ただし、人材難は目前なのでその他の手立ても必要な事がよくわかった。
・	自分の職場の経営者の方に聞かせたい内容でした。
・	大分でのホルトホール大分での講演を聴き、この研修に参加しました。更に内容が深く頭に入ってきました。
・	あたり前に行っていた移動動作等が海外では禁止になっていることに驚いた。常識を疑えという言葉が印象に残った。また、緊張により拘縮にケアのあり方を考えさせられた。
・	経営者の視点での用具の導入、トップダウンでの目標管理、今回の講演の対象者を別枠で絞ってされた方がいように思った。スタッフレベルで理解しても、上の方にはなかなか伝わらない様に思う。
・	当施設の離職状況を考えると、施設のトップは危機に対して真の原因を探り、的確な対策を打つことを真剣に考えて欲しい。拘縮が3か月で改善されると聞いてびっくりしました。早速実践できると良いと思います。
・	どの職業も人手不足で、人手が増えるという事を考えるより、今できる解決方法を見つけていこうと思いました。
・	管理者と職員との関係性によって介護の質が決まり、ノーリフティングケアの進め方が決まっていくこと。介護職の人材確保の大切さ、いかに仕事のしやすい職場にするかの問題の解決。
・	わかりやすく拘縮改善が入所者にとっていかに重要か学べました。今までやっていた関節可動域訓練や介助が緊張を生み拘縮につながるため、今日学んだ事を持ち帰り実践し、多職種へ伝えていきたいと思います。
・	拘縮は仕方ない、腰痛は仕方ないは、NLC(ノーリフトケア)で改善できるということに納得しました。
・	いつもながら勉強になります。毎回新しい発見があります。自分の組織に活かしたいと思います。ありがとうございました。目的、目標、手段の話、また聞いてください。
・	自分の職場の経営者に聞いてほしかった。腰痛もちで日々悪化するのを、是非経営者に働きかけたい。
・	拘縮≠防御反応ではないかと言われドキッとした。PTとして拘縮予防に勤めていたつもりだったのだが、もしかすると助長してしまった可能性もあると、自分のケアの見直しのきっかけになった。
・	経営者の考え方がわからなかったり、人を大事にしない経営者が多いと思った。拘縮がなくなるように手助けができることは素晴らしいと感じた。
・	利用者、介護する人のどちらにも必要な事、詳細が理解できた。
・	ノーリフティングケアの必要性を十分考える1時間をいただきました。ありがとうございました。
・	現在拘縮状態の方がいますが、日中は必ず離床していただき、リビングで過ごされています。先生のお話を聞いて、緊張を与えないケアを改めて考え実施していきます。
・	拘縮は海外にはないという事を知りとても衝撃的でした。業務中ももっと視野を広げて患者様の事を考えていかないといけないと思いました。
・	もう少し時間が長ければよかった。
・	マネージメントの難しさと必要性を学び、聴く力が大切だと思えた。
・	施設長へ自分がどう伝えていくか、施設長が是非このような講演を聴いてもらえるようアプローチします。
・	今後の施設運営について改めて考えさせられました。
・	商品開発が遅れている、何となく作っていることをすごく感じました。現場の声の吸い上げが足りない商品が多いと感じます。
・	用具の大切さがすごくわかった。職場環境の大切さがわかりやすかった。
・	経営者側に立った話だけど、一般の人にもわかりやすかった内容でとてもよかった。
・	これから先の介護業界の危機を切々と講義されたが、背筋が寒くなった。経営者の手腕にかかっている。若い者にしかできないケアから60歳を超えてもできるケアにするためにはどうしたらいいか。つまりノーリフトケアに切り替えることの重要性が理解できた。
・	施設の管理について知ることができた。
・	施設が目指す理念をどのように達成するか。腰痛対策として、抱え上げない介護を実施する。腰痛は仕方ない？これは違う。人手不足を考えると、これから高齢者がまだまだ現役として働くためにもノーリフトケアが必ず必要になり、拘縮予防にもつながることがとても理解できた。
・	自分の働く病院でも拘縮のある方が入院されています。今日講演を聴いて、緊張を与えることで拘縮を作っていることに今更ながら驚いた。
・	今のままだと大変なことになると焦りを感じました。管理者に報告し情報共有をしたい。新しい介護の情報、海外の介護にももっと視野をひろげなければと思った。緊張により拘縮が起こることを初めて知った。
・	抱え上げない介護は腰痛予防というスタッフに対するメリットが大きいという認識しかなかったが、対象者(利用者)へのメリットも大きいということが理解できた。
・	これから人口が減っていくにあたり、介護の世界に入ってもらえるには、今後の仕事をずっと続けていくにはという事について考えることができた。
・	介護人材(人手)の現状と今後の課題、資料を含め勉強になりました。
・	職員のモチベーションが上がる仕組みについての内容が良かった。必要な4つのことに取り組める施設はどんなに働き甲斐があるだろうと思った。
・	講演を聴いて介護現場は人手不足は感じています。今後、私たちも福祉用具の取り組みは全体でしていますが、まだ定着できていないので今後の課題だと思う。
・	抱え上げない介護の委員会の一員ですが、委員会の進める研修のやり方を見直すべきだと感じました。
・	目的、目標、手段、を考えて進めることの大切さ、手段だけを議論してはいけないこと、常識を疑って考えていきたいと思った。
・	話が分かりやすかった。
・	ハインリッヒとマズローは少々強引かなと感じた。
・	介護職がこれからの増えていくために、今私たちが何ができるか考えさせられました。
・	「ゆっくり、優しく、焦らず、確実に」これを掲げて仕事ができる環境をつくっていききたいと思った。
・	家族が施設に入所すると、なかなか身体に触れない。「このようにした方がいいですよ」等言えないことがありました。人を大切にするようなケアに変わってほしいです。
・	人手不足による長時間労働、荷重労働も腰痛の原因になっていると思います。
・	人材の問題は今後大きな課題となることが、話を聴いて実感した。腰痛から人を守り、離職者をなくす事の大切さを改めて感じた。

・	「スウェーデンはほぼ拘縮なし」と聞き、抱え上げない介護を利用して、利用者様緊張を与えないケアをし、介護する側も自分の身体に無理なく少しでも楽な生活を送ることが大切だと思いました。難聴な方にプレーとを使うのも良いなと思いました。
・	石橋さんのお話を聞くのは2回目です。心や頭に再度しみこませて、今後の行動にしていけます。多くの人に伝えたい内容でした。ありがとうございました。
・	拘縮予防したいと思いながら、日頃の看護行為が拘縮を増強させていると再度思いました。
・	リーダーとして何を中心に置いてケアするのか。離職を減らす、ノーリフティングケアをする、部下に相談する、出会いを感謝する、等を参考にすすめていきたい。
・	マズローの法則にあてはめながらのお話しはとても心に響きました。プロの自覚を持ち、親を入れたい、子を働かせたい施設に変えていきたい。
	このような勉強の場をご紹介いただき本当に感謝しています。私は役職でも何でもない機能訓練士ですが、丁度今施設内がとても混乱しています。そして年齢のこともあり、役職から相談を受けています。どうにか立て直しができないか毎日頭を抱えています。そのような中で石橋様の講話は希望の光の糸口となった気がします。どのように持ち込みできるかわかりませんが、一歩ずつ行ってみたいと思います。P.S先日はわざわざ城島までお越しいただきありがとうございました。
・	拘縮がおきている方が亡くなった後まで痛い思いをして、骨を折られるのは、医療職に関わる身で残念に感じた。

② 下元佳子氏講演内容について (回答数89件)

・	オーストラリアでのノーリフトの現状を聞いてびっくりしました。どうすれば当たり前の行動として習慣となるのか。自分の職場でもまず、職員の考えから変えていければと思っています。
・	人がいないからできないと言って何もしないことはいつまで経っても何もしないような状況になってしまうと、今日話を聞いて感じた。今やれることは何かということを考え実施して前に進んでいく必要がある。
・	リフト使用による相互の利点以上に、リフトで緊張が軽減することや姿勢の改善は興味深く聞かせていただきました。
・	下元先生のお話を聞かせてもらって、前向きに考えていかないと、周りにも伝えられないと思いました。
・	初めて聞く下元先生のお話。改めて人材が不足してくる中でのノーリフティングケア、そして高知全体で取り組んでいることはとても魅力的である。
・	不良姿勢、身体の使い方、海外の福祉用具の発展が進んでいる状況がわかった。
・	抱え上げない介護は介護者にとっても利用者に「とってもメリットが大きいことがわかった。
・	具体的な事例も交えた説明でわかりやすかった。
・	ノーリフティングについて学ぶことができた。
・	私の職場では33歳の私が一番若く後輩がいないのでとても不安な気持ちで仕事をしています。ノーリフト研修等、企画開催していますが、今のままでは意識を変えるところか、情報を変えることもできないかもしれないと思った。委員会の在り方を考え直したい。
・	高知県の取り組みを聞いてすごいなと思った。ノーリフティングケアを目指して、私たち施設も頑張っていきたいと思った。
・	スタッフの腰痛管理(現状把握、アセスメント、プランニング)は必要な事だと改めて気づかされた。(対象者のプランニングだけでなく、実施者のプランニング対策は必要だなと感じた)。リフト使用、ボードの使用というより、日常生活に座る、起きる、等の生活リズムを快適にさせるには必要なことと思います。
・	ノーリフトの取り組みを実際に聞くのは初めてで大変興味深いものだった。介護現場における危機感もひしひしと伝わり、改めて体制づくりを願う行動していかないとと思った。
・	高知にてベーシックとアドバンスを受講していましたので、今回の研修は興味ありましたので受講できてよかったです。
・	セラピストとしてリハとしてかかわらない時間も考えてアプローチしていかないといけないと感じた。
・	高知県の取り組みをまねて大分県も行っています。まずは個人からはじめもっともっと周りを取り込んでいきたいと思った。
・	ノーリフティングはずっときいていた。現場に活かすためには教育の必要性を強く感じた。それが取り組むきっかけになればスタッフの腰痛の軽減につながると思う。そうしていきたい。
・	抱え上げない介護についての具体的内容と実務について知ることができた。
・	昨年の講演もとても勉強になりましたが、今回も勉強になりました。早く営業に出て、ノーリフトの実現に向けて動きたくなった。ワークシェアについてはどの職種にも当てはまると思った。
・	分かりやすかった。
・	ノーリフトを取り組むことで他のケアが変わる。今までの業務や職場を変えることが出来るツールとなる。目的が見えやすいので取り組みやすい。継続できる人材、仕組み作りが必要。
・	日本とオーストラリアの違いに驚いた。自分の職場でも少しずつ取り入れていけたらいいと思う。
・	下元先生が言われたように医療、看護職として、腰痛予防を勉強してきたが、現実には腰痛者が多いことがわかった。介護看護する側、受ける側の双方のメリットを考え今からとりかかる。早めにとりかかりたいと思った。腰痛は当たり前ではないことを念頭に入れておく。
・	ノーリフティングケアについて理解を深めることが出来ました。勉強になりました。教育の方法、やり方についても1から取り組んでいきたいと思う。
・	高知県での取り組みがよくわかった。
・	ノーリフティングケアはリフトを使うという意識でしたが、講演を聞いて、ただ使うだけではなく、職員の腰痛予防等しっかりとした目的を立てて今後もノーリフトケアを実践していきたいと思う。ノーリフトケアの意識を変えることができた。
・	わかりやすく集中して聞いた。実践しようと思う。
・	ノーリフトの現状(高知の事例)や介護職員、利用者の抱え上げる負担を改善することで、ケア全体が変わる。変わっていかねばならないことがわかった。
・	ノーリフティングケアを行っていく以上、職員は色々な思いはあると思います。機器を使うことに対する不安、時間は・・・等、今日学んだ私でも自信はありません。しかし、利用者の立場に立った時、安全で安心した介護という事はとても大事な事だと思いました。
・	高知県の取り組みを知り、自分の施設でも少しずつできることから取り組みを開始したいと思った。ノーリフティングケアにいついともっと学びたいと思う。
・	ノーリフトケアが職員と利用者にも及ぼす影響、人手不足を理由にしていたら何も始まらない、目的を明確にする、等々、とても勉強になった。

・	まだまだ介助を行う際は、抱え上げていると思いながら講演を聞いていました。今日講演を聞いて、まず自分自身のノーリフトに対しての意識を変えなければいけないと思った。
・	ノーリフティングケアの必要性とその効果、引きずる、抱え上げる等のケアの実践が患者に及ぼすものはとても大きい。介護、看護する身体の負担も大きい。ノーリフティングケアのカギはマネジメント、働き方を変えて、双方にとって安全なケアの提供をする事が目的である。スタンダードにするためにPDCAサイクルをしっかり回す。用具の使用方法を考え、その対象となる人に応じたものを使用することの大切さを感じた。
・	リフトの必要性について知ることが出来ました。施設で以前働いていたので、自分の介護について見直す良い機会となった。
・	20年間介護に携わってきたが、抱え上げない介護がすでにオーストラリアでは当たり前になっている。日本は遅れている事を痛感した。現職として後継のために勉強していくことを決意した。
・	働く人、介護される方、ともに良くなるためのノーリフト。たくさんの人々に知ってもらいたいと思った。
・	介護する側、される側の権利がすごくわかりやすく説明された。私たちは用具をもっと提案(施設、病院、在宅)できるように勉強し発信し、一人ひとりの方に必要な用具を選定できればよいし、またそうやらなければいけないと思った
・	リフトの使い方が難しい、時間がかかるという事をよく聞きます。ある時を超えるために目的が意識を変える事の受容性を改めて感じた。事業所、メーカー、介護職等全員にどう伝えるのか？大事さと難しさを感じた。
・	理学療法士からの説明で勉強になった。
・	自分の施設がどの辺のレベルで次の段階に向けてどう動くか、モデル施設に向けて進んでいきます。
・	抱え上げないケアが精神面の落ち着きに連鎖している事を学んだ。
・	もう少し時間が長ければよかった。
・	ノーリフティングケアは患者様だけでなく、スタッフにとっても良い事だと知ることが出来た。腰痛改善は国を挙げて取り組む必要があるという事も納得できた。
・	高知県としての取り組みが更に進んでいる事にうらやましく感じました。今高知県の取り組みが他県にも良い影響を与えている事に心強く感じた。
・	具体的な手法や入居者の深刻な介護状況の中、介護技術の見直しを全体的に実践していかないと考えた。一人ひとりの計画に入れ込みながらコツコツ進めていけば、徐々に浸透していくのでは・・・とても学ばせてもらった。
・	抱え上げない介護をなぜ行うのか？その必要性の理由を改めて考える機会を頂いた。手段、手技であり、その先に腰痛予防、離職防止、利用者さんの痛み、拘縮予防があると思った。
・	実践はできていても、いかに効果を出していくか？浸透していくか？で試行錯誤を繰り返しているのが現状です。教育体制、環境整備体制を作るためすぐに始めたいと思った。
・	介護人材の不足とノーリフティングの必要性が増加している現状が理解できた。変革期である時に役立てないかと思った。福祉用具の提案について考えてみたい。
・	職種によって関わらない時間帯の使い方の大切さは必要だと思った。利用者に対しての情報を知り、何をするのか、しなければいけないのかを明確にしていく事。ノーリフティングケアの必要性。
・	抱え上げない介護は昨年くらいから知りました。介護だけでなく働くという事は少なからず、身体に負担がかかるという事で、介護は機器を使う事で身体にかかる負担が減る事、動作も大切だと思った。
・	当施設もリフト使用により、介護者一人で移乗ができて身体の負担が少なく、利用者に苦痛が少なくなる事は良い事だと思う。
・	リフト操作を習得中ですが、改めてノーリフティングの重要性を理解した。
・	腰痛があるため、ノーリフティングに改めて取り組もうと思った。他スタッフへの教育(ノーリフトの意味)をきちんと説明し理解してもらった上で取り組まないといけないと思った。
・	ノーリフトについて「必要だからやる」という考え方に基づいてその人に合ったケアを行っていききたい。
・	ノーリフティングケアを導入する事により職員も利用者も守る事ができる。
・	現場を変えるためにはマネジメント。改めて自分の施設におけるマネジメントを再度考えさせられる内容だった。
・	入居者様に関わる全ての職員が統一したケアが行えるよう周知徹底していききたいと思う。ありがとうございます。
・	人口が減ってきていて、人口が不足していく中で、どのようにすれば適切なケアが行えるかと思った。人がいないからできないではなく、どうすればできるかを考えたい
・	ノーリフティングの取り組みについて今まで詳しく知らなかった。現在腰痛があつて、今後仕事を続けられるのか・・・と悩んでました。全国的に浸透してほしい。
・	高知県が先に進んでいってくれているので、大分県も進めていきたい。
・	色々な面で勉強になった。改めてマネジメントの大切さ、入居者のみでなく、職員の評価も大事だと思った。
・	ノーリフトはツールであるという事。職員の教育等が大切であると本当に思います。私たちの施設でも計画を立て、前進していきたいと思う。ありがとうございました
・	具体的方法(導入に向けて)がよく理解できてよかった。
・	新しい発想を知ることが出来た。人の身体のメカニズムをきちんと理解していないと思った。外国の介護や高知の取り組みを見てみたい。
・	リフトがリハビリとしての機能をもっている事がわかった。入居者様やスタッフを守るためにも、ノーリフトは大切だとわかった。
・	ノーリフト、早期離床の必要性について考えさせられた。
・	勉強のため高知県に行ってみようと思う。
・	ノーリフティングケアは目からうろこでした。利用者と同看護者の両方に良いと思う。
・	ノーリフティングケアを進めていくためには、伝える力をつけたいと思った。まずは知ってもらう事も大切なので発信していきたいと感じた。
・	ノーリフティングケアを実践することで具体的な効果を知ることができた。今後は是非取りこんでいきたいと思った。
・	自分の施設でも介護技術を見直していきます。ファーストセミナーに参加し知識を高めていききたいと思う。
・	人の機能面に目を向けがちだが、生活自体に目を向ける必要があると思う。また、目的を明確にしその人らしい生活をどういう風に展開していくかが大事。その中で道具をいかに使用し、それをどう伝えていくかが課題。

・	「看護師はケアをマネジメントする人」という言葉にハットさせられた。根本的な考えを改善していく大切さを理解できた。他職種(リハビリ)と協力して1つでも進めていきたい。
・	非常にわかりやすく、興味を持てる講演だった。介護用の器具は色々開発されているが、介護用の為の予防器具等の開発を進めていけたらいいと思う。
・	二次障害をなくすための働きとして、組織全体で取り組む事が大切であると改めて感じた。経営者や管理者に伝えて、興味関心をもっと頂きたいと思うので、再度今回の内容を伝えようと思った。
・	情報を伝える事から始めていくために研修会を繰り返し行っているが、ただ伝えるだけでは何も変わらないことがわかった。ので、長必要か、一人ひとり自分の考えで実践できるような内容の伝え方が大切だと思う。なぜ必要かどうしたらできるかを伝えていきたいと思う。
・	グローブやスライディングシートは使っているが、全スタッフが正確に使えているか？と問われると、正直よく回答できないのが現実だと痛感した。各利用者様の個別アセスメントを全スタッフからの声を聴きながら早急に作成する必要性大です。ノーリフトをもっと会社全体で頑張りたいと思う。
・	県を動かしての取り組みが着実に進んでいると思った。福岡県の労災発生が急激に高くなっているのにびっくりでした。シートを使用する事で新たな腰痛は増えてないが、非特異性腰痛の訴えは減少していないと思った。やはり日々の介護、看護の負担の積み重ねだと反省し、そのあたりの教育の必要性を感じた。
・	ノーリフティングケアをしっかりと学び自分の技を高めたい。訪問看護師(グループホーム6ユニット)として、訪問先での身体介護の大切さを理解せず、介護の質の悪さを痛感している。下元先生に是非当施設に研修に来ていただきたい。その方向で動いてみようと思う。今日は私の声かけに6名の方が参加してくれた。感謝。
・	ノーリフティングケアは介護する人される人双方の健康的な生活を送るツールである。改めて今いらっしゃる利用者様全ての方のアセスメントを取り、併せて職員評価も行い、拘縮ゼロ、全ての機能が少しでも良好に改善・維持できるように、ノーリフティングケアを学んで取り組んでいきたい。是非高知家で学びたい(一日も早く)
・	ノーリフティングケアは患者(利用者)様にとっても、介護する側にとってもとても有効であると感じた。是非ノーリフティングケアを学びたい。
・	入浴時の移動等ではボードを使用するようになったが、他は講義があっても力で動かしている事が多いのが現状。リフト等購入等依頼する事も難しく、現状を打破する事は私の勤務中には改善されそうにない。高知で仕事ができたと思う。
・	腰痛の方が増えているが、身体を壊してしまう前にリフトやボード、シート等を使って長く介護できるよう、してもらえよう提案していきたいと思う。生活の質を上げていくために、何をどのよう(福祉用具)利用していくか、改めて考えていきたい。
・	ノーリフト導入にあたって推進チームを立ち上げたが途中より同一方向を向いていないことがわかり心痛んだ。が、今一度目標を立て直し、各担当が話し合い良い方向へ向かいつつあるがトップである長の理解がえられていない。それをどうクリアするかが課題だ。利用者、介護者双方の健康を目指し目的クリアしたいと思う。
・	看護教育に携わっているが、看護教育を変えるには新しい情報を得て、教育者自身が変わっていかなければならないと思った。本校でも昨年参加させて頂いたあと、遅ればせながらグローブやシート、ボードの導入を行ったが、まだまだ意識改革の必要性を痛感した。
・	ノーリフトケアに対して、介護職と全ての職員が共通して意識することの大切さがわかった。リハ職としてアセスメントの常用性、確かな評価を行えるためにも一度勉強していかないと。また、セラピストとして小さな変化等に気づき、多職種と連携して生活に介入していく必要性について考えることができた。
・	ノーリフティングケアでは重度の人のケアの事だけでなく事を話していただいたが、ベッドの高さやベッドへのアプローチの際の自分自身の身体の使い方等、もう少しわかるように伝えていただければよかった。それは周囲の理解をえられないから。「自分で伝えろ」という話なのか。いつも下元先生の熱意の伝わるわかりやすい、引き込まれるお話に「やらなければ!!!」と思っている。なかなか伝わらないもどかしい思いをしている。解決するには自分自身がもっと知識と技術を深くして行動力を上げたいと思う。ありがとうございました。またお会いしてお話を聞きたい。
・	「ゆっくり焦らず丁寧に」とまずは掲げたいと思う。スタッフが辞めていくばかりでその本当の理由を知らない上層部は、辞める人をいつも悪く言いふらす。とうとう今月末にはシンガポールに行って外国人労働者さんの労働研修に行ってしまう。あまりにもひどいので自治体に報告しました。でもよくよく調べることもなく「問題なし」との結果でした。世の中矛盾だらけで誰を信じるべきか…。今も施設の中では利用者さんが生きて生活しています。とても参考になりました。高知に住みたくくなりました。ありがとうございました。
・	基礎看護教育において対象者の生活の質の向上に向けて、廃用性症候群の予防、寝たきり予防及びトランスファーにおいて、対象者も介護する側も負担にならない為には良い姿勢をとりボディメカニクスと福祉用具を効果的に活用する事の必要性(ノーリフティングの必要性)を押さえることが大切と考えた。

③パネルディスカッションについて (回答数82件)

・	家族の立場の意見は聞くことが出来て良かった。
・	ノーリフティングの考えがよく理解できた。
・	研修終了後に股間がとってあることは少ないので、十分時間があってよかった。
・	ノーリフティングケアについて良い取り組みだと思し、とても参考になるものばかりだった。実際に腰痛の問題は深刻と思った。何より入所者の為になるので施設でも職員に相談して広めていきたいと思う。
・	最後の医療協会会長のお話が良かった。
・	ご家族の立場から左氏にお話を伺って、当施設のご家族は用具など知らない方も多く、疑問に思われている方も多し「のかもしれないと感じた。一つ一つ介護の方法等、安全面について説明していけるようになっていきたいと感じた。
・	私は病院に所属しているが、地域包括ケアシステムを考え、求めている患者を全人的に捉えることを、考えなおす必要がある。自分の看護カンををすり合わせリンクするところを多く感じた。
・	須藤氏のお話はとても参考になった。下地から作っていくというところ、組織の考え方を作っていく事、意識統一をしていけるように頑張る。
・	それぞれの立場での発表。取り組みは違うけど目的は同じ。多職種、沢山の人の(同じ思い、意識があれば)がいれば、かなり質の高いケアになりますよね。この取り組みが点から小さな面大きな面に広がっていくようになると、今しているケアが変わっていくのが見えてくる気がする。
・	家族の視点のお話は参考になった。施設管理者がしっかりとしたビジョンを持ちリーダーシップをとられて羨ましい限りだ。
・	左さんのお話は私たち福祉用具専門相談員も常日頃から感じている事でした。用具を準備しても使えるスタッフが少なく、結局返却される事が多いです。使用方法の指導も何度も行っているが、結局「力」でやって時短して利用者の事は二の次になっているケースが多い。介護レベルの低さを日々感じている。
・	病院で働く者として、患者さんの家族の思いをもっともっと知り、家族と一緒に看護していきたいと思う。
・	個々の事例、体験談等、具体的な取り組みについて知ることが出来た。
・	施設、事業所、家族にもノーリフトの取り組み、知識に差があり、そこに一定ラインを作ることが必要だと思った。
・	せっかくのパネルディスカッションなのに…なんかいつもと違う形です。もっといろいろ知りたかった。
・	様々な立場からの意見を聞いて勉強になった。
・	ふじの木園さんのノーリフトの導入までのお話は大変興味深かった。大分の取り組みは、実際ノーリフトの取り組み施設で働いていますので、これからの私たちが県についていかなければと改めて思った。人に伝える難しさを今悩んでいます。、左さんのお話は楽しくききながらも心に響いた。

・	情報を入れる、考えてもらう、決定してもらえような情報を提供する。自分も更に勉強せねばと思った。
・	3名の方の取り組みを聞いて今後の業務にあたり、福祉用具はもちろん個々の身体状況を含めて、何が必要なかを考えながら入居様が安全に安心して暮らしができるように考えていきたいと思う。
・	様々な現場での体験や取り組みを学び、再度勉強になった。
・	司会の方が話し過ぎ。ただの報告会。
・	パネリストの実体験が聞けて貴重な経験となった。
・	介護という言葉を使っていますが、ケア＝みんなでやっていくものとして、ケアという言葉を使っていこうと思う。余裕のないところに良いケアは生まれないというお話がよくわかった。
・	色々な話が聞けてよかった。
・	左さんのお話、同じ介護職の立場の中でグサグサときた。もっと家族の立場、本人の想いをくみ取れるアセスメントができるようにしていきたい。
・	4名の方の取り組み等、聞かせてもらってよかった。
・	入居者様に対する対応等を忘れていた事があったので思い出すことができよかった。ふじの木園のケア方針はわかりやすく実行しやすい感じでいいと思う。
・	どのように現場でやっているか、どのようにして目的等、介護員に理解してもらうかの手順が良かった。参考になった。
・	施設の福祉用具は変えていく事が必要だと痛感しているが、今の施設の現状をもっと、行政や国にも理解してほしいと思う事が度々ある。今の問題点を少しずつ解決できるよう前進していきたいと考える。
・	皆さんのお話しに「確かにそうだ」と感じる事が多くあった。私はグループホームに勤務しているので、須藤さん、左さんのお話を自分の職場に置き換え考えさせられる面が沢山の、課題に取り組んで少しでも良い職場、入居者様により良いケアができればいいと思う。
・	とても面白かった。課題も多いが、自分たちができる事から進めていく。
・	左さんの話を聞いて、なるほどと思った。福祉用具に関しては思いが一方通行にならないように、本人の状況に合わせて使用していきたい。
・	家族の思い、ご本人の思いも踏まえたケアを考えたいと感じた。ご本人様、ケアをするスタッフの身体に負担にならない事がこれからのケアには必要だと思う。これからのケアに繋げていきたい。
・	利用者目線で積極的に福祉用具を活用し、よりよいノーリフトケアに繋げていきたい。ありがとうございます。
・	と思う左先生の言葉使い、ご利用者の立場に立っての声かけは大切と思う。現場でも気を付け大切にしていきたいと思う。介護現場にいる私ですが、左先生の話が胸に刺さり勉強になった。
・	余裕のない介護で良い介護は生まれない。本当にそう思った。現実のギャップを少しでもなくせる様に、自分にできることをしていきたいと思った。
・	各々の方の話を聞いて、それぞれの取り組みや経験を聞けて良かった。
・	研修や勉強会に参加し、技術や知識を身に着け、職場での他の部署との共有をし意見を出し合いノーリフトに向けての方針を決めていきたい。
・	福祉用具を使える技術も必要である事が分かった。各立場からの意見が聞けて参考になった。
・	色々な取り組みが聞け、今後活かしていける事もあり参考になった。
・	発表者の各々の立場、取り組みを聞いて、新しい取り組みはスムーズには進まなくても長い目でみて取り組ん、で働く人にとっても仕事にとってもいい結果をもたらすものと感じた。
・	ノーリフティングケアを実践されている「ふじの木園」の話は当施設の現状と同じ状況にあったため、とても参考にさせて頂いた。「業務のゆとり」の話を聞き、今後ノーリフティングケアは必要と思った。
・	色々な話が聞けたのはよかった。次回はテーマを絞り込んだ話を聞いてみたい。
・	左さんの家族の視点、すごく心に響いた。
・	各県、施設での取り組みについて聞くことができ勉強になった。左先生の話では、家族としての話を聞き、施設側としては耳が痛いような、なるほどと思うことが多々あった。
・	様々な目線で意見が聞けてよかった。大分県以外にも高知県を学んでノーリフトは進んでいくのだろうか？
・	福祉用具の病院・施設へのレンタルについて、もう少し詳しくどんなものをどのくらいの価格でレンタルしているのか聞きたかった。後の3人の話はとても興味ある話で、用具の関わり的大事さを改めて感じた。
・	福祉用具を購入する事は高額な費用も掛かると思うので、上手にレンタルを利用することがいいのではないかと思った。
・	とても参考になった。
・	施設長、福祉用具会社、患者家族の立場の多方面からの意見を聞く事ができ、今後ノーリフティングケア導入への取り組みに際して参考になった。
・	実際にノーリフティングケアを行っている施設の話聞く中で、だれも反対しなかった事、取り組む事によって介護が楽になった、ゆとりができたという事を聞いて、施設でも取り組める事から取り組みたいと思った。
・	経営者が現在取り組まれていることと、様々な観点から話を聞くことができた。左さんの話では医療現場で働いている身として、患者様、ご家族様への対応など、今まで自分がどうしてきたか振り返り、安心して生活してもらえよう支援していけたらいいなと思った。
・	様々な立場から活動を教えて頂き参考になった。
・	左さんのご利用者、ご家族の立場からのお話を聞き、心を打たれた。寝たきりのお母さまが少しでも痛みなく楽に過ごせるように、あらゆる用具を持ち込みされ、病院・施設の間でいろいろ悩まれていた事を聞き、私たち福祉用具の専門家として、その方にとって何が必要か、ご家族にとって安心、安楽に過ごせるように提案していきたいと思う。
・	両親の介護を通して改めて看護する上で、患者様、家族の意向を聞き、お互いが納得した上で看護していきたいと思った。どんどん意見を言ってもらえたらいいと思う。また、こちらも勉強し福祉用具等いい提案が出来たらいいと思った。
・	色々な目線からの発表が聞けて勉強になった。福岡県でも是非、県を上げて取り組んでもらえると嬉しい。
・	患者家族の立場からとっても興味深いお話だった。患者(利用者)や家族と一緒に計画を立てていけるようになるためにも、もっとたくさんの情報発信(利用者、家族、管理者、職員)できるように色々学んでいきたい。

<ul style="list-style-type: none"> 須藤氏の講演で、上司に対してもスタッフに対しても理念を伝えることが大切だという事を再確認できた。理事長や施設長が賛同することで、スムーズに導入できるので、是非福岡でも広がるとよいと思った。山形氏の人脈から大分県を動かすことが出来ていると思った。福岡はどうなるでしょうか？左氏は自分で福祉用具を持ち込み、広げていかれたパワーはすごい！親孝行できていると思った。
<ul style="list-style-type: none"> 4名の方のお話しはとても聞きやすかった。ふじの木園の須藤氏の話は、毎日業務を考え目標をつくるのに参考になる。目的、意義、意味合いの大切さを改めて知った。左氏のお話は利用者様とその家族目線で参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> ふじの木園の報告に大変興味を持った。施設長のビジョン、ミッション、バリューが明確であり、やり抜く覚悟がプレゼンテーションで響いてきた。急性期病院で何が出来るか考えていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 私たちの対象者は人であって、場所がどこであれその人が暮らして生きていくという事は日々の生活の中で、その人らしい生活ができるように支援していくことだと思う。それと同時に、その人を支援するスタッフが楽に支援していくことも大事。それを行うには、ノーリフトケアの考え方は多方面から考えていく必要があると感じる。
<ul style="list-style-type: none"> ノーリフティングケアを取り組んでいる施設が多い事に驚いた。これからは施設でもレンタルを考えていき、その方に合った福祉用具を使って頂きたいと思った。そして生活の質をあげていきたい。
<ul style="list-style-type: none"> 今までのあたり前が、不適切なケア、不適切な行為であることを知るという事が、本当に共感でき、自分の施設に持ち帰り、大きなケアの転換を行う上で大変参考になった。
<ul style="list-style-type: none"> どのお話しも興味深く聞かせてもらった。違っていたらすみませんが、ノーリフティングケアを行うと、ビフォー、アフターで良い結果の報告がある。必ず良い結果になるのか？もしそうでなければ、取り組みを行ったがここまでの改善だったとか、なかなかうまくいかなかった等の例があると、時間がかかる、結果がみえない場合があることがわかり、長期的に取り組もうという気持ちになると感じた。
<ul style="list-style-type: none"> 各県での取り組みがもっと広がったら良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> まず、施設(病院)では導入のために職員の理解が必要である。県が動けば導入しやすくなると思った。患者様から見た施設や病院で、私たち職員の言動がどのように家族に受け取られているかを知れて考えさせられるものがあった。
<ul style="list-style-type: none"> 管理者の意識を再度確認する必要性。大分県の取り組みが福岡、そして全国へ広がればいいな。施設で働いた時に、利用者さんのずり落ちがよくあった。利用者さんの体型と合っていない痛い車イスを使うのが当たり前、購入費の事ばかり言われてたのを思い出した。福祉用具の方ともあまり話す事がなかった。使い方等、細かく聞く事の重要性。障害の方もレンタル出来たら良いと思う。メンテナンスが出来ていないものが多い。福祉用具もきちんとした使い方をしないと、利用者も痛み等が出てくる事がよくわかった。
<ul style="list-style-type: none"> ご家族の意向で福祉用具の持ち込みがあった場合、施設で用意をしてもらいたい場合、やってみた結果を伝えるので「できない」と決めつけない事が大事。ご本人様にとって何が一番なのかを考えてケアに入ろうと改めて思った。まずは入居者様目線！！
<ul style="list-style-type: none"> 人と人の接触がケアであるけど限界がある。できない事が、人が足りない、時間がないのを理由にしないために福祉用具を十分に活用して、速やかで安全で安心なケアを心がけていきたいと思う。色々な立場の方が、それぞれの目線で意見発表をされ、考えさせられる点、思いを強くする点多々あった。とても勉強になった。
<ul style="list-style-type: none"> ふじの木園の施設の取り組みは素晴らしい！やはりトップが変わると施設が変わるのだと確信した。少しずつでも介護の現場が良い方向に変化していくと良い。私もできる事を頑張ろうと思った。
<ul style="list-style-type: none"> ノーリフティングを導入していない病院や施設にどうやって導入していくのか勉強になった。一人の理学療法士として、自分だけでもノーリフティングを行い、他の人に見てもらおうのも一つの方法だとわかった。
<ul style="list-style-type: none"> 1人の発表時間が足りなかったと思う。もっと聞きたかったので時間を十分とってほしかった。しかし、興味深い話があった。福祉用具専門相談員として深く考えさせられた。ノーリフトケアの実践をしたいと思う。勉強する所存。
<ul style="list-style-type: none"> 究極は利用者のゴールを高めていくこと。働き方改革で介護のイメージを変えたい。介護は嫌な仕事ではないと思う。そのためにノーリフティングを取り入れる。
<ul style="list-style-type: none"> 施設(特養ユニット型)の方がノーリフティングケアをなぜ必要とし、どのように導入していった、どういう結果がでたのか等が知れた。介護をしている家族さんの立場から、福祉用をどう使っていきたいか等聞けて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 施設での取り組みは、私は病院で働いているのでとても感じるものがあった。廃用性症候群を出さない事、これは病院職員として考えないといけないと思う。ケアの共有は大事と思う。
<ul style="list-style-type: none"> 左さんの体験話が家族の声として心に響いた。福祉用具は一般の方々には全く知識のない事に納得させられた。アセスメントを基に、その人に合った福祉用具、自立を目標にした的確なノーリフトケアを行えると良いと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 「あなたのお仕事何ですか」「何のためにしているの」「知りながらにして害をなすな」・・・心にくるもの、考えさせられる部分があった。家族からの本音を聞いた。尿・便意があるのに紙パンツ使用を聞いて、布パンツが良いのではと思った。
<ul style="list-style-type: none"> 質問できませんでした。須藤さん、生活リハビリは、ノーリフトケアでなくなってしまうのではないのでしょうか？心配です。計画書どうしましょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ご家族からのお話しを聞いて・・・とっても控えめに思考されている。私とその立場だったらどうしただろう。不適切なケアがどんな結果をもたらしているのか、そもそも不適切と思っていないのが一番大きな問題。自分の家族だったら誰も適切なケアをしてほしいと思う。いや、プロだからしてくれているはずと思って疑っていないと思う。本当に業界がそんなレベルであることを考えると恥ずかしい事。大きな声では絶対言えない。早く当たり前のケアにしたい。その目的は、その方の尊厳を大切にすることだ。
<ul style="list-style-type: none"> 左さんの報告で思った事。私の母も10年間寝たきり老人状態で7年前に亡くなった。左さんの切なさを感じた。ありがとうございます。
<ul style="list-style-type: none"> 家族立ち合いのもと、ポータブルトイレを使用し、ご本人の生活にとケアプランに取り込んでいただく事しかケアをすることが出来ない現実が現状であることがとても心に残った。ケアが人つなぐことになることを考えたい。利用者を知ることにアセスメントする事が大切と感じた。利用する人、家族が情報を知って、それが必要だとニーズが多くなってくれば、社会も必要性を考えてくると思う。
<ul style="list-style-type: none"> 各県、各事業者、各施設での働きが見えた。特に個人で動く時は、対象者や家族の訴えにしっかり聴き、何をしてほしいのか理解する必要があると感じた。また、対象者や家族が選択できる環境にしていく必要がある。

④福祉用具と抱え上げない介護技術体験について (回答数26件)

<ul style="list-style-type: none"> 道具の紹介だけでなく使い方を学べて良かった。
<ul style="list-style-type: none"> 体験談を聞きながら思った。耳の痛くなる話だと。自分達の介護の仕事を見直して行きたい。
<ul style="list-style-type: none"> 施設では現在ボードやシート、グローブ等、ようやく始めたばかり。リフトも導入予定となっている。置物にならないよう、必要性を伝えていきたいと思う。
<ul style="list-style-type: none"> 個々に合った用具を自分の施設では使用していない。上司が導入しないという事がいつも恥ずかしく思う。

・	最新の車イスの見学ができて良かった。ポジショニングの方法を考える機会がもてて良かった。
・	リフト体験で、患者にとっては楽だという事がわかった。実施するにあたり、現場においては時間がないと思っているから、つい抱えてしまう方を選択しているが、そのギャップあるいは発想を変えることでスムーズな導入に移行されるのだろう。
・	実際に福祉用具を使ったり、利用者の立場になって体験できてよかった。
・	介助方法、福祉用具の使用方法がよく理解できた。現場ですぐに活用できる内容で大変ためになった。このような内容だけの研修をもう少しじっくり受講したいと思った。
・	ポジショニングは勉強になった。リフトも良かった(HUG)
・	ボード、シート、身体の使い方がわかりやすかった。
・	実際に福祉用具の紹介を見て、車イスもどんどん改良されていると改めて知った。ポジショニング、リフトは勉強になった。
・	どんな身体の動きを出したいから介助者がどうサポートする。腰痛予防のために、どんな風に動くのかが分かりやすかった。私もしっかり説明、介助している。
・	実際使用してみると思った感じと違った(良い意味で)。今後活用していきたい。貴重なお話をありがとうございました。
・	スタンディングリフトを初めて体験させてもらった。値段は高いが、こんな人に使ってあげたいと、今まで関わったご利用者の顔がうかんできた。
・	リフト体験をあまりしたことが無かったので、体験してみて緊張が低くなりびっくりした。
・	「楽助さん」は良かった。
・	大変勉強になった。
・	対象者の生活の質の向上のために、生活の補完のために福祉用具を有効活用するための必要性を学んだ。
・	実体験をしてよく理解できた。
・	体交クッションについて、ポジショニングの仕方がみれてよかった。
・	ポジショニングがすごく勉強になり、リフト、スライディングシート、ボードも体験できた。実践していきたいと思う
・	リフトを見たのが10年くらい前だったので、とても進化していると感じた。福祉用具の取り扱いをきちんとすることが大事と思う。また、福祉用具の会社の人がかきちんと指導してくれたらいいと思う。
・	立ち上がりの福祉用具の体験ができ、新しい商品も見ることができてよかった。
・	施設と家庭(家族)両面で協力して福祉用具を利用できれば良いなあと思う。自分自身、親の介護中なので強く思う。
・	ノーリフトを会社全体で取り組み、ある意味成功されているお話を聞く事ができて参考になった。本根を申し上げれば、その手法や経過をもっと深く聞きたかった。
・	自際に、簡易型移乗リフト「ささえ手」と床走行リフトを体験してみて、患者様がリラックスした状態で動かしてあげられるな~と思った。

アンケートに頂きました皆様からのたくさんのご意見やご感想を力にして、微力ですが、今後もより一層の抱え上げない介護があたりまえのケアになることを目指して取り組みたいと思います。(NPO福祉用具ネット理事一同)